

【7月19日配布 PTA だより原稿】

学校にとって大切なこと

校長 吉田 健太

まもなく終業式。一学期が終わろうとしています。今年度も、始まってみると、やはりコロナに振り回され、さまざま活動に制限と制約がある毎日が繰り返されました。そんな中、保護者・地域の皆様には、常に変わらぬ温かなご理解とご協力を学校にいただき、深く感謝しています。いつも思うことですが、保護者・地域の皆様と学校が同じ方向を向いて手を結びあってこそその子どもたちの笑顔と健やかな成長です。

さて、六月・七月とかなり通常に近いかたちで学校の活動をおこなえたことはよかったのですが、その中で、すでにお知らせしたように、心を痛めるできごとがいくつかありました。持ち物への嫌がらせ。大切に育てている植物への乱暴なおこない。人を傷つける言動。全体の雰囲気荒れているわけではなく、一部の子がしてしまった行為ではありますが、してしまった子どもたちだけの問題ではなく、学校全体の問題として深く受け止めています。本当の温かな優しい心や思いが満ちている場所では、簡単にこのような行為が起きることはないと思うからです。本来、子どもたちは大人にも増して純粋で温かな優しい心や思いをもっている存在です。その子どもたちがもっている大切なものを十分に育て表現できる場所でありたい。あらためて強く思いました。

温かな優しい心や思い。はっきりと目に見えないけれど感じられるもの。

ここで思い出すのが、ホームページで紹介しましたが、六年生の教室の黒板に書いてあったある詩です。宮沢章二さん「行為の意味」です。

内容を抜粋すると---

- 心は見えないが、心づかいは見える
- 思いは見えないが、思いやりは見える
- 心づかいや思いやりは人に対する積極的な行為だから
- 温かい心が 温かい行為になり、優しい思いが 優しい行為になるとき 心も思いも美しく生きる
- それは人が人として生きること

心づかいや思いやり、温かい行為（おこない・ふるまい）や優しい行為（おこない・ふるまい）が、どの学年でもどの学級でもいつもあたりまえのように見られる学校。理想かもしれませんが、姫島小学校はそのような学校でありたいです。そのために、まず自分自身がそうありたいし、教職員にもそうあってほしい。そして、保護者・地域の皆様にもそうあっていただきたいです。

何はともあれ、夏休み。安全と健康に気をつけ、長い休みにしか取り組めないことに取り組み、少しくましくなった子どもたちと二期始業式に顔を合わせたいです。